

# アイシン環境学習プログラム

PRESENTATION

～地球の仲間たちの声を聴き続けます～



## アイシングループ概要



- 事業内容等 自動車部品・住宅設備機器・エネルギー機器・福祉機器
- 連結売上高 2兆5,299億円 (2013年3月31日)
- 営業利益 1,488億円 (2013年3月31日)
- 経常利益 1,587億円 (2013年3月31日)
- 従業員数 87,990名 (2013年9月30日)
- 連結子会社数 171社 (国内65社・106社)
- アイシン環境プログラム実施会社(6社)
- アイシン精機(株)・アイシン高丘(株)・アイシン化工(株)
- アイシン・エイ・ダブリュ(株)・アイシン・エーアイ(株)・(株)アドヴィックス
- 自動車部品 住生活 エネルギー



## アイシン企業市民活動の3本柱



### 活動方針

- ・NPOなど地域団体との連携で、地域に密着した活動を展開
- ・従業員の参加促進を図り、汗を流す活動により意識向上につなげる

### 自然・環境保護

[考え方]  
地域団体と協働で  
アイシングループ従業員の  
ボランティア意識向上を  
ねらいに活動

#### [主な活動]

矢作川流域保全活動  
富士山植樹活動  
中国植林活動

### 青少年育成

[考え方]  
地域団体や学校と  
連携しながら健全な  
青少年育成をねらいに  
各地に出向いて活動

#### [主な活動]

アイシン環境学習プログラム  
ものづくりなぜなぜプロジェクト  
少年少女発明クラブ支援  
ものづくり出前講座

### まちづくり

[考え方]  
地域団体の自立支援  
をねらいに人、物、金、  
情報のサポート

#### [主な活動]

オールアイシンNPO活動応援基金  
テーブル・フォー・トゥー(TFT)  
障がい者施設の清掃活動

## プログラムが生まれたきっかけ



05年以前 「青少年育成」分野が弱い  
小学生への環境活動の普及、地域をまきこんだ活動が必要

2005年 愛知万博 エコトークセッション  
小学校との協働による環境発表会

保護者や地域  
への発信

万博の理念を  
引き継ぐ

体系化された  
プログラムの  
提供

コーディネート  
力の不足

教育NPOアスクネットとの出会い

## 特定非営利活動法人アスクネット

○ 愛知県の教育NPO。学校と地域をつなぐ教育コーディネーターとして、「出会い」と「挑戦」の教育を推進

- 事業規模約 6000万円
- スタッフ 専従職員11名・非常勤2名
- ボランティア 約200名
- 活動拠点 愛知県



市民講師ナビ・キャリア教育



高校生向け6万部発行  
情報誌Schan

市民を活かす  
○ 市民・有識者も参画する「ワーキンググループ」をつくり、プログラム作成と市民講師として、協働



企業を活かす  
○ 教室での「座学」のみならず、企業資産を活用した体験(校外学習)をサポート

NPOを活かす  
○ 体系化されたプログラム提供と教員をサポートする教育コーディネーターを配置

市民・企業・NPOの協働を活かす  
○ 生き物への共感をベースにした「シンパシーワークショップ」や「エコアクション」講座などユニークかつ、体系化された年間プログラム

ワーキンググループメンバー  
高野雅夫 (名古屋大学環境学研究科准教授)  
浅野 智恵美 (環境カウンセラー)  
亀田将紀 (環境アドバイザー)  
清藤奈津子 (矢作流域森林ボランティア協会)  
白金晶子 (矢作川研究所)  
水谷央 (森あそび本舗)  
今井光代 (エコプラットフォーム東海)  
鈴木由美 (藤前干潟を守る会)  
鎗谷有里 (名古屋大学4年生) 他

## アイシン精機の役割

環境学習の場の提供  
アイシン・エコピア  
根羽村での間伐体験 など  
地域の環境保護意識の啓発



## NPOアスクネットの役割

教育プログラム開発の実績  
市民講師のコーディネート  
実施校との連絡・調整



環境学習プログラムの支援

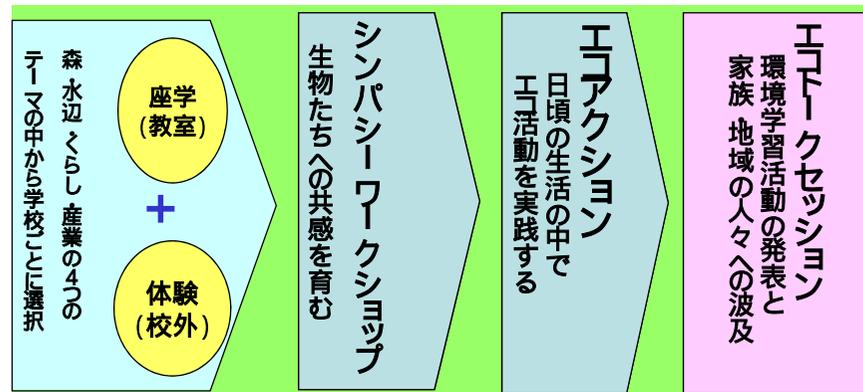
## 環境学習を希望する小学校

・地域、学校の特色に合わせた学習のテーマ(森・川・くらし・産業)

・担任の先生による事前・事後指導



工場・拠点のある地域を中心に小学生('13年 12市町、31校)を対象に、年間を通して、気づきからエコの実践へつなげてゆく



学び・感じる



共感する



実践する



成果の発表

## 出前講座(座学・体験)



テーマに沿った環境の講師をお招きし、学校の要望に即した「座学体験」講座を実施。

自然体験やゲーム等を通じて疑似体験することで、子供たちに気づきを与えたり、体験を通して考えたり、話し合ったりする講座となっている。

### 『子供の感想』

アイシンの工場見学で、リサイクルした材料でピオトープが作られていることにおどろいた。ぼくも、リサイクル品で何かをつくってみんなをたのませたい。

アイシンは、車の部品をつくる仕事だけでなく、私たち以上にリサイクルや節約に心がけていたので、私も出来ることから始めます。



「買い物ゲーム」の講座では、疑似体験ショッピングを実施



「すなめり君を救え」のえさとりゲームで食物連鎖について学ぶ



リサイクル品に生まれ変わる製品

## シンパシーワークショップ



- オリジナルのカードを使った講座（ゲーム感覚）
- 生き物の目線で、人間のくらしと環境のかかわりについて気づく。（共感）
- 話し合いを通して、自分達にできることを考える。

### 「子供の感想」

生きていけるのも自然や生き物のおかげなんだってことに気づきました。

地球は人間だけのものではなく、動物たちの地球でもあることを学びました。



## 実際の「エコアクション」の流れ



地域スーパーのお客様にレジ袋を受け取るか、受け取らないかの聞き取り調査中！

エコの気づ木



エコアクションの集計

### 「子供の感想」

自分にとってエコが当たり前になってきました。エコをするたびに新しいエコが見つかります。小さなエコでも誰かのためになることが分かりました。家族も一緒にエコをしてくれるのもっと楽しくなりました。

## エコトークセッション（発表会）



保護者や地域の皆様を招いて行われる発表会

### 「エコ宣言」

ぼくらがまもる地球の未来

ものは大切に最後まで使いきります  
給食はこぼさず配り、残さず食べます  
放課後は電気を消して、外で遊びます

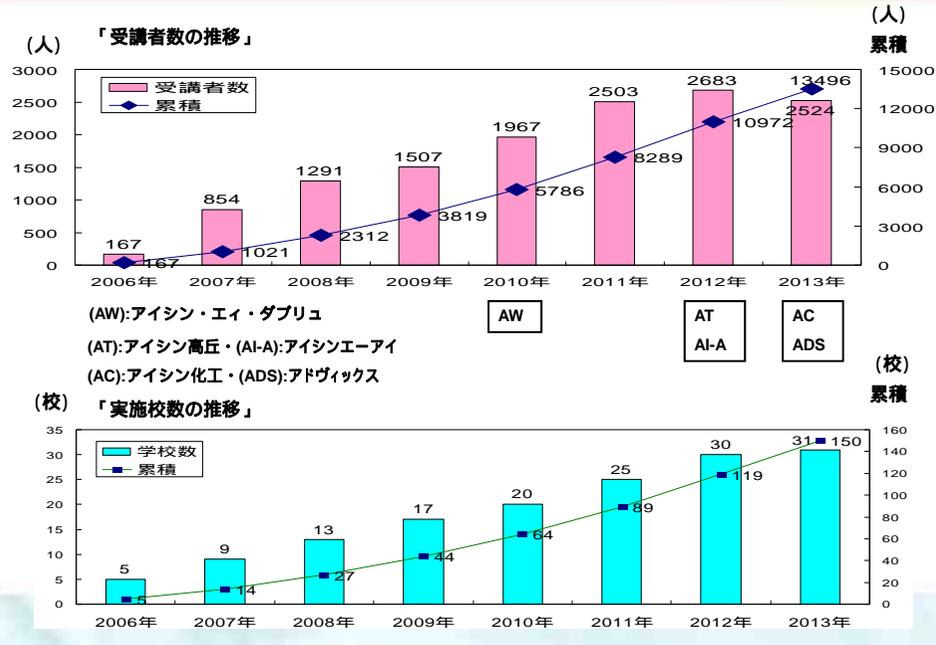


参観者の皆様に成果を発表する子供たち



子供の代表に修了証書を授与

# 受講者数・実施校数の推移



今後もアイシンは、企業市民として、引き続き、持続可能な地域づくりを担う人材育成につながるよう、出来る限り多くの子供たちにこのプログラムを提供して参ります。

ご清聴ありがとうございました。